

2019年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2018年11月9日
株式会社ゼネラル・オイスター



General Oyster

Copyright © General Oyster Inc. All Rights Reserved.

事業再生計画の進捗及び決算ハイライト

事業再生に向けた取り組みは計画通り進捗しており、グループ全体での利益体質化が進みました。
営業損益ベースで上半期は対前年で損失幅が縮小しております。

事業再生計画の 進捗

「黒字化の実現を目的とした取り組み」について計画通り進捗

(取り組み例)

- 飲食事業における売上高増加（客単価向上、リピート顧客獲得）を目指した、サービス品質向上・CRM施策の継続実施。特に年末商戦付近の来店客数増加を目的とした、提供メニュー再構築とPR活動への注力。
- 飲食事業における人員不足の解消（余分な残業代の削減）とシフト管理方法見直しによる人件費低減。取引先、外注先見直し等の費用削減の徹底。
- 取締役体制・会議体見直し等によるガバナンス強化の完了（子会社含む）。

「価値最大化を目的とした取り組み」について計画通りに進捗

- 成果に報いる仕組みの構築（評価・報酬・等級を対象として人事制度再構築、実力に基づく内部昇格制度の検討）。
- ビジョン・ミッション浸透の目的とした全社員向けミートアップ開催。
- 飲食事業における店舗従業員と専門人材（加工事業領域）の採用活動加速。

2019年3月期 上半期 ハイライト

- 不採算店舗閉店による店舗数減少に加え、大型台風等の影響により、売上高は対前年で減少。
- 不採算店舗閉店や人件費等のコストコントロールを徹底したことにより、販管費を圧縮。
- **売上高は減少したものの、コスト見直し等により利益体質化が進み、前年比で損失幅を縮小。**

2019年3月期 上半期 決算ハイライト

店舗数減少と大型台風等による影響で、売上高は対前年で減少しているものの、営業損益では不採算店閉店や経費削減により、**損失幅が縮小**しました。

(百万円)	2017年度 上半期	2018年度 上半期	増減額	備考
売上高	1,822	1,697	▲125	・ 飲食事業は店舗数が減少 ・ 既存店対前年売上は 96.3%と微減
EBITDA	▲115	▲94	+21	
営業利益	▲157	▲142	+15	・ 営業損益赤字幅が縮小
当期純利益 (※)	▲139	▲132	+7	
総資産	2,430	2,031	▲399	
純資産	601	459	▲142	

2019年3月期 上半期 損益計算書

不採算店閉店や人件費コントロールの徹底による販管費削減が営業赤字幅縮小に寄与しました。

(百万円)	2017年度 上半期	2018年度 上半期	増減額	備考
売上高	1,822	1,697	▲125	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食事業は店舗数が減少 ・ 既存店対前年売上は96.3%と微減
売上総利益	1,208	1,126	▲82	
販管費	1,366	1,269	▲97	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費等削減△51M ・ 支払手数料削減△19M ・ 地代家賃減少△10M ・ 販売促進費等減少△9M
営業利益	▲157	▲142	+15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業損益赤字幅が縮小
当期純利益 (※)	▲160	▲147	+13	



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。